

- 1 報告地区 : 胆振地区
- 2 事例報告学校名 : 登別市立幌別西小学校
- 3 報告者 : 校長 神谷 博達
- 4 キーワード : 「総合的な学力形成」を図る包括的な学校改善

1 はじめに

本校は、学級数15（含特別支援学級3）、児童数310名の規模で、温泉などで有名な観光地域から少し離れた登別市中心街の学校である。平成24年度から道の学校力向上総合実践事業の近隣実践校の指定を受け、今年度から実践指定校となっている。

継承してきた教育活動の価値と成果を踏まえ、質的な深化を目指し、説明責任はもとより指導責任・結果責任をもち、その成果を子どもの姿に転化できるよう職員が一体となって取り組んでいる。


2 地域に根ざした魅力ある学校づくり

本校は、平成26年度からのコミュニティ・スクール事業を基盤に子どもの笑顔があふれる学校づくりに向かい、その中で「総合的な学力（＝知力＋心力＋体力）」を形成する「学びの循環づくり」を実現すべく、保護者および地域住民と共創した教育活動を展開している。

「地域に根ざした魅力ある学校づくり」		
「共育」「協育」「響育」をもって子どもを育む～学校、家庭、地域がととにも～		
子どもの笑顔を支える家庭	子どもの笑顔を作り出す学校	子どもの笑顔を見守る地域
<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ご飯を基本とした望ましい生活習慣 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの中で生まれる学力、体力、道徳性、社会性 	<ul style="list-style-type: none"> ・元氣な挨拶と正しい言葉遣い、安心安全な地域社会
▼	▼	▼
笑顔を支える取組	笑顔を作り出す取組	笑顔を見守る取組
<ul style="list-style-type: none"> ・親子で学校をきれいにする「ふれあい清掃」（年3回） ・自然体験施設で行う通学合宿「のほりべつ・子ども村」 ・生活リズムチェックシートを活用した生活習慣定着化対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ボランティアによる放課後学習サポート ・土曜参観授業・ふれあいDAY（地域公開授業） ・9年間の「小中連携事業「西陵中学校区一貫教育」 	<ul style="list-style-type: none"> ・幌別西地区青少年健全育成協議会による「交通安全あいさつ重唱」「防犯パトロール」「標語コンクール」 ・PTAによる「防犯パトロール」 ・地或合同遊戯訓練の実施 ・親子ふれあいスポーツ大会
▼	▼	▼
生活リズムの確立	学力と体力の向上	マナーの大切さ
<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度7月期の学校評価において「生活リズムが確立している」と答えた保護者は88.0%、「朝ごはんを毎日食べている」と答えた児童は86.5%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H29標準学力調査は全学年で全国平均との差を縮め、H30全国学力・学習状況調査では全科目で全国平均を上回った。H30新体力テストでも全学年で6項目以上全国平均値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度7月期の学校評価において「子どもたちから元氣な挨拶ができる」と答えた保護者が83.4%、「進んで挨拶している」と答えた児童は92.9%。

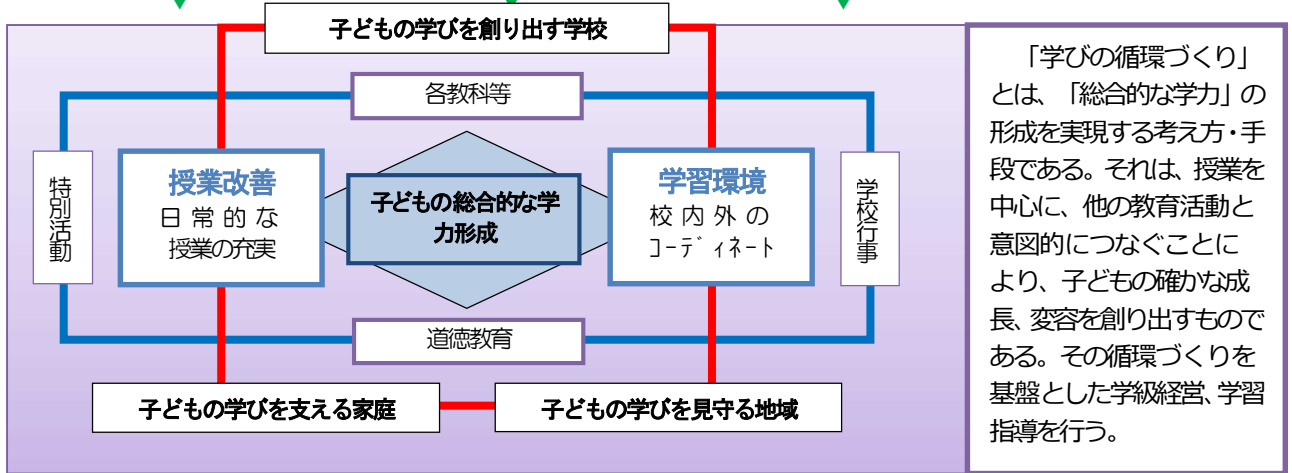
- ・学校運営協議会により承認された学校運営の基本方針
- ・子どもを取り巻く課題

- ・学校運営協議会で熟議されたCSからの取組



放課後学習サポート

- ・子どもの変容を各種調査や学校評価等から検証し3者で共有



3 学校マネジメント

SMARTの考え方にに基づき、検証の客観性と具体性をもってマネジメントできるよう「総合的な学力」を構成する3つの力について、検証可能な目標を設定し、検証サイクルの過程において全ての教職員で可視化された達成状況を確認しながら学校改善を進めている。

本校が掲げる「総合的な学力（＝知力＋心力＋体力）」

	確かな学力の定着		豊かな心を育む
	成果指標 1-①	成果指標 1-②	成果指標 2-①
目標	標準スコア50ポイント以上	学年×10分以上の達成率70%以上	学校評価【挨拶】 A・B合算80%以上
方法 時期	標準学力調査 (平成30年度12月)	家庭学習状況調査 (平成30年度12月)	学校評価～教職員、保護者及び子ども (平成30年度7月・12月)

SMART
Specific: 具体性
Measurable: 測定可能性
Achievable: 達成可能性
Reasonable: 合理性
Time-bound: 期限の有無
※当事業実施要綱より

平成30年度新体力テスト
全学年の結果
(平成30年度7月)

4 学校全体で取り組む日常的な授業の充実

学びの循環づくりの根幹となる授業改善を進めるため、「当たり前」の「当たり前」が異なることを組織の課題として、本校の「当たり前」(基準)を明らかにし、校内研修と連動させながら全ての教職員で共通理解を図って指導する。また、それにより学校力事業の指定を受けて増え続ける若手の授業力向上を促進している。

授業の充実 (スタンダード)

みんながんばる！ 幅西の子！！

すすんで学習する子の 7つの「が」

- 机の上は、ひつようなものをひつようなきまった場所におきます。
- 授業の「はじめ」「おわり」のあいさししっかりとします。
- 授業中のよいしせいは、立腰(りつよう)・手をあげるときも同じです。
- 話すとき
 - 名前をよばれたら、「はい」と返事
 - 「です」「ます」まで、はっきり話し
 - 授業中にふさわしい言葉づかいで話
- 聞くとき
 - 話す人を見て、手をどめ、さいごま
 - しっかりと聞きま

共通指導する学習規律を確認し、各教室にも掲示している。
小・中学校9年間の連続性を踏まえて作成する。

- 子どもの発言(考え)を引き出す授業
- 学習課題も明確で、課題解決に向けて効果的な言語活動を位置付けた授業
- 学習の流れが見える発問、板書とノート指導
- 学びを実感できる学習活動の工夫によって主体的・対話的で深い学びを実現する授業
- 「分かった」、「できた」、「使えた」と結び付く適用、習熟、確認のある授業
- 落ち着いて学習できる教室環境

(上) 日常にする授業像を6つで示す。
(右) 授業改善チェックシート
これらを関連付け、授業改善のポイントを明確にした。

授業の充実に向けて～学習指導

目	観点	達成
整	【環境】机上や机の周り、棚、ロッカー、掲示物などが整理され、落ち着いた教室環境が整っている。	○
学	【規律】学習の準備、挨拶、姿勢、話し方の聞き方、話し合いの仕方など、共通指導を含め学習規律の指導を徹底している。	○
導	【課題】本時の目標を踏まえた学習課題を設定し、子どもに分かりやすく示している。	○
関	【見通し】子ども一人ひとりに課題を理解させた上で、課題解決の見通しをもたせている。	○
	【発問】多様な考えを引き出したり、思考を深めたりするなど、子どもの発言(考え)を引き出しながら授業を展開している。	○
	【ノート等】発問・指問、板書と結び付けながらノート指導を徹底している。	○
	【相互理解】課題解決まで、子どもが安心して自分の考えを発表し、互いに学び合っている。	○
	【言語活動】課題解決したことや考えたことを分かりやすく、丁寧な文章で書いたり説明したりする指導を行っている。	○
	【時間】教や活動の時間を確保し、導入から展開、終末まで時間配分が適切である。	○
	【振り返り】とめや振り返りの時間を確保し、学習内容の定着を指導を行っている。	○
	【学びの循環】確・習熟・補充の他、発展、予習・復習など意図を確に学習	○

＜ 本校の年代別構成 ＞

年代	20代	30代	40代	50代	60代
構成比	27.3%	27.3%	18.2%	18.2%	9.1%



5 おわりに

子どもたちには、社会の大きな変化に主体的に向き合いながら、自らの可能性を発揮し、未来を切り開く力を身に付けることが求められる。本校は、家庭や地域と連携協働して教育活動を展開するなかで、子どもたちに「総合的な学力(＝知力＋心力＋体力)」を形成することを目指している。

そのためには、学校を地域等にかかれたものとし、経営責任を明らかにすることが必要であり、教育の成果について家庭や地域への「説明責任」に留まらず、エビデンス(根拠)に基づく「指導責任」や「結果責任」を伴ったマネジメントが重要である。今後も社会や子どもの変化に対応した不断の学校改善に努め、子どもたちの豊かな学びづくりに全力を傾注していきたい。